

令和7年度

素形材技術研修講座「最新のアルミニウムダイカストの生産技術」

ご 案 内

主催 一般財団法人素形材センター
共催 一般社団法人日本ダイカスト協会
公益社団法人日本鑄造工学会

素形材センターでは、鑄造業の技術継承と今後の発展に貢献する技術・技能者の育成を目的として「素形材技術研修講座」を開催しています。この講座は理論と実際をテーマに、現場の経験を多く取り入れ、また最新の情報を提供するものです。ある程度現場を経験された若手や、理論的知識を改めて習得したい方を対象としており、明日からの業務に役立つ内容です。積極的な参加をお勧めします。

■本講座の目的

(一社)日本ダイカスト協会 技術部 次長 渡邊 一彦

ダイカストは、精密な金型に溶融合金を高温で圧入して高精度で、鑄肌の優れた鑄物を短時間に大量に生産する方式である。ダイカストは、高い生産性や特徴から、近年合金種類や用途も様々拡大している。しかし、一般に高速で溶湯を金型へ射出し、高圧で加圧するダイカストは欠陥が少ないように見えるが、多くの欠陥もある。不具合が発生した場合、どこで発生したかを調査するため、すべての工程を把握していることが問題解決の近道である。したがって、ダイカストは、合金材料・金型（方案・製品形状等）・ダイカストマシン（低速・高速・圧力等の鑄条件）・周辺技術等からよく総合技術と言われる。本講座の内容としては、ダイカストの三大要素（材料・金型・ダイカストマシン）とその周辺技術から品質までダイカスト技術の全体像が理解できるように9テーマで構成され、ダイカスト業に関連する基本的な技術や知識を理解し、また向上させることを目的とし最新の動向もご紹介する。

※コーディネーター・プロフィール

大手ダイカスト生産会社で、低速充填ダイカスト、超高速ダイカスト、高真空鑄造ダイカスト、半凝固ダイカストなどの技術開発・鑄造技術・製造に携わる。現在は、(一社)日本ダイカスト協会技術次長として、ダイカストの発展・普及に携わっている。

■日 時 令和8年2月26日(木)、3月4日(水)、12日(木)

オンライン研修講座 (Microsoft Teams を使用)

コーディネーター (一社)日本ダイカスト協会 技術部 次長 渡邊 一彦

■プログラム

令和8年2月26日(木)

ダイカスト用合金の特性と最近の動向----- 10:00~12:00

アルミ合金ダイカストは自動車を中心とする輸送機器に不可欠であることは従来からは変わらないが、環境問題への対応からエンジン、ミッション関係部品依存から、電動化にともなう車体、サスペンション、バッテリーケース等を中心とした十分な延性が不可欠な薄肉・大型部品への転換という大きな変革が求められている。これら部品は従来からのADC12を中心とした延性の低い高強度合金では対応できない。したがって従来あまり用いらなかった各種の高延性合金に積極的に取り組み、市場への対応を確保しなければならない。また、ダイカストの大型化も積極的に進められており、このような難しい状況へどう対応すればよいか、検討の素材を提供する。

元 日軽エムシーアルミ㈱ 技術顧問 工博 北岡山治

溶解および手元炉における溶湯品質と管理----- 13:00~14:20

自動車市場での大きな変化に伴い、アルミ合金ダイカスト材の十分な延性の確保は重要・不可欠であるが、ダイカストの工程で所定の高延性を安定して確保することは容易ではない。車体、サスペンションをはじめとする各種の大型部品で10%前後あるいはそれ以上の延性を安定確保するには、従来とは大幅に異なる合金の使用が要求されるとともに、溶解鑄造に至るすべての工程で従来とは異なる溶湯の管理・対応が必要となる。リサイクル材の使用比率が高いダイカストでは溶湯の品質にはより一層の注意が必要といえる。このような状況に如何に対応するかべきか、様々な検討の素材を提供する。

元 日軽エムシーアルミ㈱ 技術顧問 工博 北岡山治

ダイカストマシンと周辺機器 ----- 14:30~15:50

ダイカスト三大要素であるダイカストマシンについて、過去の歴史や動作原理を説明する。また、製品を作る工程である射出性能を理解することで良品率向上に寄与できれば幸いである。近年のダイカスト生産は全自動運転が主流で、それに欠かせない自動機や生産性向上のための装置などについて説明する。最後に一番優先すべき安全について再度確認する。

芝浦機械(株) 成形機技術部 営業技術課 相田 悟

令和8年3月4日(水)

製品設計と鋳造方案 ----- 10:00~12:00

ダイカストの品質および生産性は、製品形状と鋳造方案に80%依存していると言われている。本講演では、ダイカストにおいて最も重要な製品設計と鋳造方案に対する基本的な考え方、製品形状の設計方法、使用合金の特徴と選択方法、製品の品質基準の考え方、鋳造方案(湯口、オーバーフロー、ガス抜き、押出、冷却)の基本設計と応用、製品形状と鋳造方案による鋳造条件の決定方法を解説する。また、品質確保の補助技術として、特殊ダイカスト法についても、その概略を解説する。

(株)ナノキャスト 取締役 菊池政男

ダイカストのCAE技術 ----- 13:00~14:20

ダイカスト部品の薄肉化やギガキャストでの製造に伴い鋳造方案や鋳造条件の最適化が必要になっている。経験と勘だけでは製造できない物が多くなってきた現状で、鋳造現象を可視化する鋳造ソフトは必須のアイテムとなっている。本講座では、最新の鋳造ソフトで何をどこまで解析できるのかを紹介する。

(株)日立産業制御ソリューションズ 営業統括本部 茨城支店 谷本雅俊

ダイカスト金型の故障とその対策 ----- 14:30~16:20

ダイカスト鋳造における金型の品質安定性は生産性に大きく影響を及ぼす要因になる。高品質で高精度な金型を操業過程でより安定に維持させるには適切な材料選択や機械加工、放電加工、熱処理、表面処理などの技術的な現象・挙動を理解する必要がある。本講義では金型の安定性に係る留意点やギガキャスト用金型などについて事例も含めて紹介する。

日原技術士事務所 所長(元九州工業大学 情報工学院 客員教授) 工博 日原政彦

令和8年3月12日(木)

ダイカスト欠陥と不良対策技術 ----- 10:00~12:00

アルミニウム合金ダイカストは、美麗で滑らかな鋳肌と優れた寸法精度を有し、薄肉で軽量の鋳物が短時間で大量に生産できることから自動車関連をはじめ電気機械、一般機械など種々の分野で使用されている。しかし、一般的に充填時間が100ms以下と極めて短時間であり、凝固時間も短いため、ガスの巻き込みやひけ巣などの鋳巣欠陥や、未充填や湯境などの外部欠陥などといった多くの欠陥が発生する。そこで、本講演では、アルミニウム合金ダイカストに発生する欠陥の種類とその原因及び対策技術について紹介する。

ものづくり大学 名誉教授 工博 西 直美

高品質ダイカスト技術と合金材料技術 ----- 13:00~14:00

ダイカストに発生する欠陥を抑制し、品質向上を目的として1960年代から多くの技術開発が行われてきた。低速充填ダイカストは、鋳巣欠陥の低減に効果があり、ロアームなどの強度と延性が必要な部品に適用されている。また、高真空ダイカスト法は、自動車のショックタワーなどの薄肉で強靱性が要求される部品に適用されている。さらにこれらの重要保安部品には、従来のJS合金ではなく特殊な合金が使用される。本講演では、これらの新しいコンセプトに基づいたダイカスト技術、材料技術について紹介する。

ものづくり大学 名誉教授 工博 西 直美

ダイカストの品質管理(現場技術、実体評価、後加工等の管理) ----- 14:10~15:40

本講義では、まず品質保証、品質管理の定義、目標、歴史など一般的な話をする。次にダイカストにおける生産設計から量産までの各段階で、品質管理について検討すべき事柄を、具体例を交えて説明する。その中で、事前検討や日常管理するための手法、目的に合わせた検査方法、量産時心がけておくべきポイントについて紹介する。

ウチダエスコ(株) MS管理室 担当部長(元日立金属(株)/株)アルキャスト) 影山 望

* 状況によっては、プログラムの変更、開催を中止させていただく場合がございますので、ご了承ください。

●参加要領

◇定 員 40 名 (申込順に受け付け、定員になり次第締め切ります)

◇受講料 57,700 円 (消費税込み) 講義資料を郵送いたします

素形材センター特別賛助会員、一般賛助会員、日本ダイカスト協会会員及び日本鑄造工学会正会員・学生会員は、28,850 円(50%割引)。

※協賛会員の方へ：協賛会員の特典にセミナー・研修の割引はありません。ご理解をお願いいたします。

※開催前日まで受講取消のご連絡がなく、当日欠席されても受講料はお返しいたしません。

※1 日単位での受講をご希望の方は、下記申込先までご相談下さい。

◇申込方法

素形材センターホームページからお申込み下さい。

申込：<https://www.sokeizai.or.jp/pages/27/>

一般財団法人 素形材センター 企画部

E-mail kensyu@sokeizai.or.jp 電話 03(3434)3907



◇申込締切 令和 8 年 2 月 16 日 (月)

◇注意事項

・Microsoft Teams を使用したオンライン研修講座です。研修講座参加のために、パソコンやタブレットなどの端末と、インターネット環境、メールアドレスが必要です。また、通信費は参加者負担になります。

・カメラ、マイク、スピーカーを備えたパソコンでの参加を推奨しています。

・研修講座の録音・録画等や、本研修講座のコンテンツ（研修講座参加の URL、パスワード等）を外部に流出させる行為は、固くお断りいたします。

・1 名様につき 1 つのお申し込みとしてください。1 社で複数名様をご参加の場合、それぞれお申込みください。

・映像や音声が乱れる場合がございます。ご了承ください。

・参加者ご自身の機材に関するトラブル等のお問合せには、事務局は対応いたしかねます。

※その他注意事項につきましては、参加申し込み後にお送りするメールに記載させていただきます。

個人情報保護法に関する対応

ご記入頂いた個人情報は、本研修講座の事務に利用するとともに、参加者リストを作成し、講師に手交します。また、素形材センターの行う各種研修、セミナー、出版物、事業の案内状の送付に利用する予定です。今後、素形材センターが行う素形材産業の実情に関する調査アンケートへの協力依頼を行う場合もあります。